

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：メロン新品種「TL タカミ」の育成と品種特性			
[要約]: 千葉県と日本園芸生産研究所は、千葉県が育成した「千葉TL」を利用して、栽培労力の省力化や軽減化が可能な巻きひげのない大果系露地メロン「TLタカミ」を育成した。「TLタカミ」は巻きひげがないので、つるの絡み合いがなく、管理作業が容易で、果実は「タカミ」に比べやや大きく、果実外観及び内容は「タカミ」と同等で良好である。			
フリーキーワード 露地メロン 新品種 TL タカミ 巻きひげ 省力化			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター暖地園芸研究所野菜・メロン研究室 北総園芸研究所東総野菜研究室	
	協力機関	(財)日本園芸生産研究所	
実施期間	2004年度～2005年度		

[目的及び背景]

露地メロン栽培では、メロンの各節から発生する巻きひげが葉、葉柄、つる、果実等に固く巻き付き、つるの整枝・誘引やその後の摘果・マット敷きに多大な労働負担を強いられる。これらの作業は、全栽培労働時間の約30%を占め、作業が遅れた場合は、さらにその後の作業時間の増大と果実品質の不均一を起こす原因となっている。生産者の高齢化が進む中で、産地を維持するには、栽培管理の省力化や軽労化が強く求められている。

そこで、本県が育成した巻きひげのないメロン「千葉TL」を育種素材に利用して、日本園芸生産研究所と共同研究を行い、巻きひげのない大果系露地メロンを育成する。

[成果内容]

- 1 「タカミ」(日本園芸生産研究所の育成品種)と「千葉TL」の交雑後の自殖と戻し交配から、巻きひげのない大果系露地メロン新品種「TLタカミ」を育成した(図1)。
- 2 「TLタカミ」は、作型に関係なく巻きひげがないので、つるの絡み合いがなく、整枝・誘引や摘果・マット敷き等の管理作業が容易で、栽培労力が軽減できる(表1)。
- 3 果実は従来の「タカミ」に比べてやや大きく、果実外観及び内容は「タカミ」と同等で良好である(表2)。
- 4 「タカミ」と同じく、つる割病、うどんこ病に抵抗性を持ち、春作の地這い栽培に適する。生育は、中・後期に草勢が強くなり、強健な株となるため、株疲れから発生する障害果は少ない。

[留意事項]

- 1 「TLタカミ」は巻きひげのない「タカミ」であるが、巻きひげに代わって2本目の側枝が発生することがある。着果節位付近の巻きひげ由来の側枝は、交配前に除去する。
- 2 「TLタカミ」は、整枝・誘引作業の省力化が可能になるが、管理作業の遅れは品種特性を発揮できない。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置] なし

[普及状況]

[成果の概要]

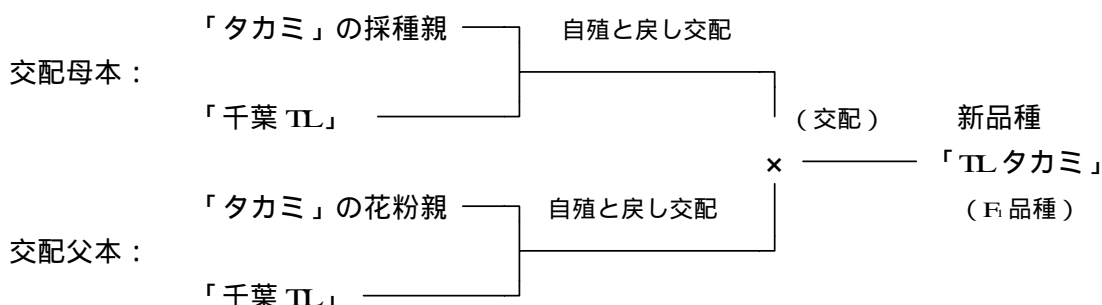


図1 品種育成図（日本園芸生産研究所）

表1 巻きひげの有無がメロンの整枝・誘引などの作業時間に及ぼす影響（東総野菜研）

品種名	つるの 仕立て	交配前の 整枝・誘引	交配時の 整枝・誘引	玉選び・ マット敷き	玉選び後の 整枝・誘引	合計
TLタカミ	2.8	4.2	5.6	27.8	1.4	41.8
タカミ	3.1	5.6	9.7	69.4	11.1	98.9
比	90	75	58	40	13	42

* 単位は時間/10aで、比はTLタカミ/タカミ×100 (%)

** 栽培地：東総野菜研究室圃場、トンネル早熟栽培

*** 耕種概要：3月14日播種、4月9日定植、7月15日収穫

表2 「TLタカミ」と「タカミ」の果実特性（野菜・メロン研）

品種名	一果重 (g)	果実の大きさ		果形	ネット			花ご ん径 (cm)	糖度 (Brix)	果肉厚 (cm)	食味
		縦径 (cm)	横径 (cm)		密度	太さ	盛上り				
TLタカミ	2426	15.8	16.1	3.9	4.6	2.5	2.0	2.1	14.9	4.8	4.1
タカミ	2203	15.2	15.4	4.2	4.9	2.4	2.1	2.2	14.8	4.8	4.0

* 果形及びネットは、優れる：5～劣る：1とした。

** 食味は、優れる：5～普通：3～劣る：1として評価した。

*** 栽培地：野菜・メロン研究室、ハウス栽培

**** 耕種概要：4月2日播種、4月21日定植、7月17日収穫

[発表及び関連文献]

1 . 平成16年度暖地園芸試験成績書

2 . 平成16年度野菜試験研究成績概要集

[その他]